

2020年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 日 本 史 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>問題Ⅰは、歴史研究者に必要な、学問上の方法論に関する設問とした。歴史研究を行なう際、いかなる概念によって当該社会を把握するのかは、対象とする時代や地域を問わず、常に投げかけられる課題だからである。</p> <p>問題Ⅱでは、日本を中心とする前近代史および近現代史の研究に必要な史料読解力と基本的な知識とを問う出題を行なった。史料の正確な解釈によって歴史研究が成り立っていることを理解してもらうような出題を心掛けた。</p>

2020年度  
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 日本史学 全5枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 5枚、解答用紙 2枚を配付する。

【問題の構成】

- ①全2問。問題Ⅰと問題Ⅱとから成る。
- ②問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題に答えなさい。
- ③問題Ⅱは選択問題であり、AとBとから構成される。大学院入学後に古代・中世・近世を専攻する受験者はAを、近代・現代を専攻する受験者はBを選択し、問題に答えなさい。

【解答用紙の使用方法】

解答は、問題Ⅰと問題Ⅱとについて、それぞれ別々の解答用紙に記入すること。

.....

問題Ⅰ

歴史叙述においては、〇〇体制や△△制度、××主義などの用語や概念がしばしば用いられる。そうした歴史概念を研究で用いることに関して、その利点や欠点に触れながら、具体的な例をあげて論じなさい。

問題Ⅱ **A** 次の【史料一】・【史料二】を読んで、下記の設問(問一～七)に答えなさい。なお、出題の都合上、一部、史料の表記を改め、省略したところがある。また、史料文中の「      」は、直前の字句の表記を適宜書き換えたものである。

【史料一】『<sup>①</sup>入来院家文書』建治三年(一二七七)十月二十一日渋谷重経置文案

よ一(渋谷重員)・七郎(渋谷頼重)ふけう(不孝)のよち(後)、ふしき(不思議)をいたす  
②あいた、いよくいこん(遺恨)まさるところニ、きしまの入道(木島遺賢)の御つかいの  
時、ゆるさぬをもゆり(許)たりとて、はやすめかいく(家)にうちいりて、③どうせきとん  
[等]をし候ものなれへ、ちやうふつ(定仏≡渋谷重経)かりんす(臨終)のちかうらん時、  
きたりてかんだう(勘当)ゆりたりと申すさうのもの也、ちやうの時きたらへ、そのねたさに  
④ちこくぐを(落)ちう事うたかい(疑)ないし、ちやうならへ、ありのまゝにか~~み~~「上」  
く申て、⑤ゆはをのしま、⑥えそかしまくなか(流)すべし、[中略]  
けんち三ねん十月廿一日 <sup>⑦</sup>ありはん

問一 傍線部①～⑦について、かな文字は漢字に置き換え、漢字はその読みをひらがなで記しなさい。

問二 【史料一】の文書名は「置文案」である。「置文」および「案」とは何か、それぞれ簡潔に説明しなさい。

問三 傍線部「か~~み~~く申」とは、誰が誰に訴えることであろうか。考えられるところを述べなさい。

問四 【史料一】から読み取れる、渋谷重経と渋谷重員・頼重との関係について、簡略に説明しなさい。

【史料二】

起請文前書事

- 一、今度拙子一件教度御穿鬘被 仰付、殊更 殿中被召出達 上聞、拙子無誤通被聞召分、如前々島をも致安堵候様二被 仰出、万事御奉公之作法無相違儀、<sup>⑧</sup>外聞美義(儀)偏御 当之御高恩と<sup>⑨</sup>忝奉存候、<sup>⑩</sup>冥加至極、家之面目不過之候、如此之上者、拙子式難申上 候得共、竭粉骨之忠節毛頭不奉持式、全不可奉忘其志候事、
- 一、至違 公儀盡若一切不可申談事、
- 一、被 仰出御法度以下相背申間鋪(敷)事、
- 一、日本朝鮮通用之儀三付、日本之御事を大切ニ奉存知、御為ニ悪様ニハ毛頭仕間鋪候、何事 二よらず、朝鮮に心ひかれ、日本之御事を存知かへ申候て、御うしろくらきいたすましき事、 付日本又朝鮮之何も御隠密之儀若承候共、親類縁者たりといふとも、一言も其沙汰仕間鋪事、
- 一、朝鮮之仕置以下、如家業被 仰付候、<sup>⑪</sup>重冒御深罷蒙候段、難有忝奉存候、何様之儀も被 仰出候之趣守其旨、万端 速御奉公油断仕間鋪事、
- 右之御高恩共、子々孫々聊忘却仕間鋪候、一言片辞扶偽心候者云々、

問五 傍線部<sup>⑧</sup>、<sup>⑩</sup>について、読み方をひらがなで示し、その意味について簡潔に説明しなさい。

問六 【史料二】は、江戸時代前期の「柳川一件」という事件の直後に、某藩から幕府に提出され た起請文である。

- (a) その某藩および大名家はどこであったか、答えなさい。
- (b) 三箇所波浪線を踏まえ、「柳川一件」の顛末について知るところを述べなさい。
- (c) 【史料二】の本文は、朝鮮通信使に関する記録類に書き写され今に伝わったものである。最後の「云々」のあとに続く文章は、ふつつ何と呼ばれるか。また、そこに通例記される 内容について、簡潔に説明しなさい。

問七 【史料二】第五条によると、「朝鮮之仕置」は、某藩・某家の「家業」の如く扱われること となったという。その後、この文言は「朝鮮押えの役」と言い換えられ、江戸時代中期以降、 幕府に対してさかんに強調されるようになった。

- (d) 「朝鮮仕置」や「朝鮮押え」の語から窺える、当時の朝鮮観、およびその成り立ちにつ いて知るところを述べなさい。その際、下記の用語を必ず一度は用いること。(三韓征 伐/武威/朝鮮出兵)
- (e) この部分からは、近世の幕藩制国家において「家業」を守ることがいかに大切であ ったかが判明する。当時、なぜ「家業」がかくも重視されていたのか、簡潔に説明し なさい。その際、下記の用語を必ず一度は用いること。(役/石高/身分)
- (f) 「被」と「仰付候」との間に改行がある。これを古文書学や書誌学等では何と呼びな らわしているか。また、その意味するところを併せて説明しなさい。

問題Ⅱ B 次の【史料一】・【史料二】を読んで、設問(問一～八)に答えなさい。なお、出題の都合上、一部、史料の表記を改め、省略したところがある。

【史料一】

斯時に当りて ① 翁が独立自尊の主義を唱へて、天下万衆と共に相率ゐて、最大幸福に進まんと欲するは、② 洵に好し、然れども独立自尊を以て唯一の道德主義とすること果して当れりや否や、徳川時代の極端なる服従主義を矯正せんがために独立自尊を唱ふるは不可なりとせず、③ 然れども今日にありては然く極端なる服従主義は最早存せず、然らば尚ほ何をか矯正せんとする、但々忠孝の教は依然として国民教育の骨子たり、若し是れを以て極端なる服従主義の存続に過ぎずとせば、翁が独立自尊を唱ふるの旨意亦解すべからずとせざるなり、

(井上哲次郎「独立自尊主義の道德を論ず」、丸山信監修『福沢諭吉研究資料集成 同時代編』第三卷、大空社、一九九八年、一三三頁)

問一 【史料一】は明治時代の啓蒙思想家の主張について論じたものである。空欄 ① について、(一)～(三)に答えなさい。

- (一) 当てはまる人物の氏名を答えなさい。
- (二) この人物が「独立自尊」を唱えたところがあるが、それを唱えた理由について、簡潔に述べなさい。
- (三) この人物の著作を二つ書きなさい。

問二 傍線部②、③をすべてひらがなで書きなさい。

問三 筆者は、空欄 ① の人物の主張についてどう考えているか、史料から分かる範囲で簡潔に述べなさい。

【史料二】

④加之国際連盟に於て滿洲問題の討議が今後如何に紛糾しても、再度同じやうな大掛りの調査委員を派遣するが如きは絶対にあり得ないと思ふから、調査報告書としてはこれが最終のものたるべきは言をまたない。〔中略〕

第三章では「日支両国間の滿洲に関する諸問題」を取り扱つて居る。前後七節にわたり、日本の有する權益の性質に関する一般論から鉄道問題・⑤二十一ヶ条問題に続き、朝鮮人問題から最近の万宝山事件・中村大尉事件に及んで居る。先づ⑥報告書は近時滿洲と南支との結合の益々鞏固になりつつあるの事実を認め同時に日本の利益も増大し、この両者の利害の衝突する可能性を説き、一転して日本の⑦特殊權益は「⑧支那の主權と相容れざるが如きものである」と説いて居る。

（吉野作造「リットン報告書を読んで」『吉野作造選集』第六卷、岩波書店、一九九六年、三〇二〜三〇四頁）

問四 傍線部④をひらがなで書きなさい。

問五 傍線部⑤について、正式名称を書き、簡潔に述べなさい。

問六 傍線部⑥は「リットン報告書」を指す。この報告書が作成された背景とその後の日本外交の展開について、簡潔に述べなさい。

問七 傍線部⑦について、

(一) それは何か、簡潔に述べなさい。

(二) いわゆる「特殊權益」というものを最初に日本にもたらした戦争は何か、答えなさい。

問八 傍線部⑧について、

それは、ある条約によつて列国が規定したものである。その条約名を答えなさい。また、同条約によつて規定された中国に関する外交の原則は何か、答えなさい。